

意見書第 8 号「沖縄普天間基地の無条件撤去を求める意見書」

賛成討論原稿

2010.6.15

日本共産党議員団

私は日本共産党議員団を代表して、意見書第 8 号「沖縄普天間基地の無条件撤去を求める意見書」に、賛成の立場で討論を行ないます。

そもそも、沖縄普天間基地の移転問題は、13 年前、日米合意で名護市辺野古に移転することが決定されましたが、辺野古住民の強い反対により一歩も進むことができなかったという問題であります。

民主党政権が誕生したとき、自民党議員の国会質問に対して、民主党政権は13 年間一歩も進まなかったことが、いま進もうとしている「大きな前進だ」という主旨の議論がされました。しかし、また、鳩山政権が辺野古への移設・徳之島での一部訓練という日米合意がされ、閣議決定がされたことに、沖縄県民、徳之島住民から大きな反対の声がわき起こっています。新しく誕生した菅内閣も、所信表明演説で「日米合意」をあくまでも実行することを明確にしました。

普天間基地問題の経過は意見書にも述べられているような経過でもって建設されたものであります。

昨年の総選挙で、鳩山代表は、普天間基地は「国外、悪くとも県外」に移転させることを約束しました。しかし、結果は13 年前、自民党が米国と合意した辺野古への県内移設と米軍の危険を拡大する徳之島への一部訓練機能の移転で、米国と合意し閣議決定しました。

鳩山首相の徳之島への一部訓練移設に対して、徳之島 3 町の首長はこぞって断固反対を表明し、4 月 16 日には島内人口の 6 割、1 万 6 千人の住民が参加した「反対集会」が開かれました。

沖縄県でも 4 月 25 日、「沖縄普天間基地の早期返還、県内移設反対集会」が開かれ、9 万人の県民と仲井真沖縄県知事をはじめ沖縄県内 41 市町村の首長全員が参加するという画期的な集会となりました。また、集会では「基地問題は、沖縄県民だけではなく、日本国民全ての人が、自分の問題として考えてほしい」と普天間高校 3 年生の 2 人の生徒が訴えました。このように沖縄県民、徳之島住民の意向を無視してまでの「日米合意」閣議決定は許されるものなのでしょうか。

日本共産党の志位和夫委員長は、4 月 21 日、ルース駐日米大使と会談し「沖縄県内はもとより日本国どこにも「地元合意」が得られる場所はないと考えている」。普天間基地問題解決の唯一の道は、移設案なしの無条件撤去しかない」ということが日本共産党の主張であることを伝えました。

ルース大使は、米軍基地の問題では意見が異なっていると、安保条約と在日米軍再編合意の重要性を強調しましたが、同時に「在日米軍基地のインパクトを軽減しなければならないと認識している」と述べるとともに、普天間基地問題では、現行のキャンプ・シュワブ案が最善で実現可能であると表明しました。

また、志位和夫委員長は5月7日、米国務省内でケビン・メア同省日本部長らと会談し、「沖縄問題をめぐる情勢の特徴は一言で言うと、普天間基地を返還する代わりに別の場所に「移設する」という方針が完全に破たんしている」こと、沖縄県民の「どんな形であれ、新基地は作らせない」という県民の総意は揺るがないものとなっており、「移設先」の徳之島でも、3つの自治体の首長がそろって政府に対して受け入れられない立場を表明しました。この問題で米国政府は「地元合意がないところには基地を作らないことを原則としていると聞いている。普天間基地問題解決への唯一の道は「移転条件なしの撤去」しかない。すなわち無条件撤去しかない」というのが見解であることを伝えました。

志位氏の発言に対して、米側は従来立場を繰り返し、説明しましたが、米側は「見解が違って意見交換するのは有益で民主主義の基本です。これからも続けましょう」との発言がありました。

このように、日本共産党のトップが米側に対して沖縄県民、徳之島住民の合意・民意を直接届けました。普天間基地の撤去問題は国政上・外交上の焦眉の課題であるにもかかわらず、当時の鳩山首相はもとより、国内の他の政党のトップがこのような行動をとられなかったことは奇妙奇天烈なことであり、国民・住民の意見をもとに問題解決に努力しない政治とはいかがなものでしょうか。

沖縄の海兵隊が駐留することで東アジアに対する「抑止力」が働くということが言われていますが、そもそも海兵隊の任務は、戦争の最前線で戦闘につくことを任務としています。現在も沖縄普天間基地に所属する海兵隊員がアフガニスタンなどに出かけており、日本への「抑止力」というものが存在しないことがあきらかとなっています。実質的に意味を持たない「抑止力」をもとに、普天間基地の移設を5月28日に「日米合意」に基づき閣議決定したことに沖縄県民と徳之島住民は連帯して強力に反対していくことを確認しています。

意見書に記載されています「沖縄県議会の意見書」の採択、「名護市議会の意見書」の採択、沖縄県民集会での普天間高校の生徒の訴えの重みを受け止め、武豊町議会においても当意見書を採択されますようお願いしまして、賛成討論といたします。

以 上